

(別紙)

障害福祉分野のICT導入モデル事業 事業報告書

自治体名

埼玉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジン チャノハナフクシカイ
法人名	社会福祉法人 茶の花福祉会
フリガナ	タイジュノケ
事業所名	大樹の郷
提供サービス（複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択）	
施設入所支援	
職員数（常勤換算数）【「全職員の月間勤務時間数」/「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出（産休・育休、休職は除く）】	36.7人
ICT機器等導入完了日	令和 6年 2月 29日

(1) モデル事業の実施以前における当該事業所のICT機器等の導入・活用状況

業務内容	ICT機器等の導入・活用状況
支援記録の作成	部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
職員間の情報伝達・情報共有	①ICT機器等を導入していない（紙中心で事務作業を行っている）
請求業務	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
勤怠管理	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）
シフト表作成	部、ICT機器等を導入している（紙とICT機器等の両方で事務作業を行っている）
給与業務	③ICT機器等を導入している（多くの事務作業が電子化されている）

※「業務内容」に応じ、ICT機器等の導入・活用状況を選択してください。

- ①ICT機器等を導入していない（紙のみで対応）
- ②一部、ICT機器等を導入・活用している（紙とICT機器等で対応）
- ③ICT機器等を導入・活用している（全てICT機器等で対応）

(2) モデル事業実施によるICT機器等の導入状況

ICT機器等の種別	導入目的	製品名	台数	備考
⑥記録・情報共有・請求関連業務ソフト	①作業の迅速化	記録管理システム	10	
⑤記録・情報共有・請求関連業務ソフト	①作業の迅速化	AmiVoice SBx 介護辞書	3	

※「ICT機器等の種別」については次の中から選択し、その種別ごとに導入目的、製品名、台数等を記載してください。

- ・情報端末等・・・①パソコン、②スマートフォン、③タブレット、④インカム
 - ・ソフトウェア・・・⑤記録・情報共有・請求関連業務ソフト、⑥勤怠管理・シフト表作成・人事給与関連業務ソフト
 - ・通信環境機器・・・⑦Wi-Fi・ルーター
- なお、「⑧その他」を選択した場合には、「備考欄」に、ICT機器等の種別を記載してください。

※「導入目的」については、次の中から特に該当する番号を選択してください。

- ①作業の迅速化（支援記録の作成など）
 - ②情報の共有化（職員間の情報伝達・情報共有など）
 - ③業務の統合化（請求業務、勤怠管理、シフト表作成、給与業務など）
 - ④その他
- なお、「④その他」を選択した場合には、「備考欄」に、導入目的を記載してください。

(3) モデル事業を活用して改善を図った業務におけるICT機器等の導入前後の業務時間、作成文書量の状況

① ICT機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり業務時間 (D/業務従事者数)	備考
		A.ひと月当たり発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
①支援記録の作成	40人	31件	372件	45分	279時間	7時間	
②職員間の情報伝達・情報共有	45人	31件	372件	75分	465時間	10時間	
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
		62件	744件	120分	744時間	#DIV/0!	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。
なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A.ひと月当たり発生件数の算出方法

①支援記録の作成が毎日発生するため。31日（支援日誌・夜勤日誌、看護日誌、利用者看護記録・ケース記録、ヒヤリ・事故報告、短期入所記録、排泄記録、検温記録（平均9件））
②情報伝達業務が毎日発生するため。31日（早番、日勤、遅番、夜勤 各勤務帯からの引継ぎ（4件）、医務からの発信（1件））

<※2>C.1件当たりの平均処理時間の算出方法

①支援日誌（10分）・夜勤日誌（10分）、看護日誌（10分）、利用者看護記録（5分）、ケース記録（5分）、ヒヤリ・事故報告（2分）、短期入所記録（1分）、排泄記録（1分）、検温記録（1分）=計45分
②早番、日勤、遅番、夜勤 各勤務帯からの引継ぎ（4件）、医務からの発信（1件）の各引継ぎ時間をベースに記載 計75分

② ICT機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	業務従事者数	発生件数		C.1件当たりの平均処理時間	年間業務時間 D (B×C)	1人あたり業務時間 (D/業務従事者数)	備考
		A.ひと月当たり発生件数	B.年間発生件数 (A×12)				
①支援記録の作成	40人	31件	372件	44分	273時間	7時間	用初期段階の為、一部分のみの使用に留まっている
②職員間の情報伝達・情報共有	45人	31件	372件	75分	465時間	10時間	用初期段階の為、一部分のみの使用に留まっている
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
			0件		0時間	#DIV/0!	
		62件	744件	119分	738時間	#DIV/0!	

※「具体的な業務内容」については、①支援記録の作成、②職員間の情報伝達・情報共有、③請求業務、④勤怠管理、⑤シフト表作成、⑥給与業務、⑦その他から選択してください。
なお、「その他」を選択した場合には、「備考欄」に、業務内容を記載してください。

以下の※1及び※2については、ICT機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>A.ひと月当たり発生件数の算出方法

①支援記録の作成が毎日発生するため。31日（支援日誌・夜勤日誌、看護日誌、利用者看護記録・ケース記録、ヒヤリ・事故報告、短期入所記録、排泄記録（平均8件））
*発生件数を1日当たり1件程度減らすことが出来た。理由としては、バイタル測定を共有・入力出来るようになったことで、別に検温記録をする必要がなくなった為。
②情報伝達業務が毎日発生するため。31日（早番、日勤、遅番、夜勤 各勤務帯からの引継ぎ（4件）、医務からの発信（1件））

<※2>C.1件当たりの平均処理時間の算出方法

①支援日誌（10分）・夜勤日誌（10分）、看護日誌（10分）、利用者看護記録（5分）、ケース記録（5分）、ヒヤリ・事故報告（2分）、短期入所記録（1分）、排泄記録（1分）=計44分
②早番、日勤、遅番、夜勤 各勤務帯からの引継ぎ（4件）、医務からの発信（1件）の各引継ぎ時間をベースに記載 計75分

年間業務時間削減率 (%)

0.8%

※以下のICT機器等導入前・後の作成文書量は、該当する文書がある場合に記載してください。

③ ICT機器等導入前の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量 (A×12)
支援・夜勤・ケース	90ページ	1,080ページ
看護日誌	30ページ	360ページ
バイタル・排泄	60ページ	720ページ
	180ページ	2,160ページ

④ ICT機器等導入後の作成文書量

作成文書	作成文書量	
	A.ひと月当たり	B.年間作成文書量 (A×12)
支援・夜勤・ケース	90ページ	1,080ページ
看護日誌	30ページ	360ページ
排泄	30ページ	360ページ
	150ページ	1,800ページ

年間作成文書削減率 (%)

16.7%

(4) ICT機器等の導入効果

① 事業所におけるICT機器等導入の推進方法

1部職員が中心となり使用しカテゴリの絞り込みや使いやすいグループ分け等を行っている
現時点で職員全体で使用できているのはバイタルの記入のみとなっている。今後、使用範囲を広げシステムに慣れていく

※事業所において、ICT機器等の導入をどのように進めたか（事業所内の推進体制、外部への相談など）を記載してください。
また、事業所にICT機器等の導入にあたり工夫した点、苦労した点がありましたら、その点も記載してください。

②ICT機器等の導入による業務の変化（複数選択可）

情報端末導入による効果
<input type="checkbox"/> 1 支援記録の作成に要する時間が減った。
<input type="checkbox"/> 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。
<input type="checkbox"/> 3 インカム等の導入により、職員間の情報伝達や職員の移動負担が軽減した。
<input type="checkbox"/> 4 利用者の情報を一元管理できるようになった。
<input type="checkbox"/> 5 その他の効果があった。
<input type="checkbox"/> 6 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

ソフトウェア導入による効果
<input type="checkbox"/> 1 支援記録の作成に要する時間が減った。
<input type="checkbox"/> 2 支援現場や外出先で支援記録の作成ができるようになった。
<input checked="" type="checkbox"/> 3 利用者の情報を一元管理できるようになった。
<input type="checkbox"/> 4 記録業務、情報共有業務、請求業務を一気通貫で行えるようになった。
<input type="checkbox"/> 5 勤怠管理、シフト表作成等の業務を一気通貫で行えるようになった。
<input type="checkbox"/> 6 その他の効果があった。
<input type="checkbox"/> 7 効果がなかった。

※「その他の効果があった」を選択した場合には、その内容を記載してください。

③ICT機器等の導入による業務効率化及び職員の業務負担軽減の状況

システム導入後、バイタル測定について、共有・入力出来る様になった事で、検温記録の作業を減らすことが出来ている。（バイタルの記録を行っていくなかで現場、医務、事務所間でスピーディーに共有が行えるようになった）

※ICT機器等の導入により、どのような業務改善ができ、どのような業務効率化が図られたのか、また、職員の業務負担軽減にどのような効果があったのか、具体的に記載してください。

④ICT機器等の導入による業務効率化で確保できた業務時間の活用方法

利用者支援にあてる。

※ICT機器等の導入により、業務効率化で確保できた職員の業務時間について、他のどのような業務に活用できたかなど、具体的に記載してください。

(5) ICT機器等の導入による費用面での効果

ICT機器等の導入による費用の縮減 無

※ICT機器等の導入による費用の縮減が「有」の場合、以下についても回答をお願いします。

縮減額（円）	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当（※1）	
サービスの質の向上に係る取組への充当（※2）	

（※1）「その他職場環境の改善への充当」の内容について、具体的に記載してください。

（※2）「サービスの質の向上に係る取組への充当」の内容について、具体的に記載してください。